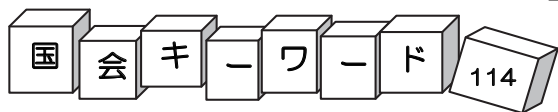


参議院常任委員会調査室・特別調査室

論題	国会キーワード「審議中継への手話通訳付与」
著者 / 所属	佐藤 誠司 / 庶務部広報課
雑誌名 / ISSN	立法と調査 / 0915-1338
編集・発行	参議院事務局企画調整室
通号	435号
刊行日	2021-6-1
頁	109
URL	https://www.sangiin.go.jp/japanese/annai/chousa/ripou_chousa/backnumber/20210601.html

※ 本文中の意見にわたる部分は、執筆者個人の見解です。

※ 本稿を転載する場合には、事前に参議院事務局企画調整室までご連絡ください (TEL 03-3581-3111 (内線 75020) / 03-5521-7686 (直通))。



審議中継への手話通訳付与

令和3年1月18日。第204回国会（常会）において行われた内閣総理大臣の施政方針演説等政府4演説から参議院審議テレビ中継及びインターネット審議中継に初めて手話通訳が付与されました。

国民に向けた国会中継は、昭和22年6月の第1回国会開会式がNHKラジオで中継されたことを端緒とし、参議院自身の事業としては平成2年から参議院審議テレビ中継を、平成10年からインターネットを利用した参議院インターネット審議中継を開始しています。聴覚障がい者への対応としては、NHKでは平成30年の第197回国会（臨時会）から内閣総理大臣の所信表明演説及び各会派の代表質問の際に字幕付与が始まりましたが、これまでの参議院の審議中継においては、字幕や手話通訳を付与しておらず、リアルタイムで聴覚障がい者が国会審議の様子を知ることはできませんでした。

令和元年7月に行われた第25回参議院議員通常選挙において重度の障がいを持った候補者が当選したことをきっかけに、参議院のバリアフリー化の議論が活発化します。参議院議院運営委員会理事会の協議を受け、令和元年11月、与野党議員による「バリアフリー化推進プロジェクトチーム」（以下「バリアフリーPT」という。）が立ち上がり、車いすで登院・登壇ができるよう正玄関等へのスロープの設置、福祉車両の導入等、施設面でのバリアフリー化について提言がなされ、順次実現されてきました。

令和2年6月（第201回国会（常会））、参議院総務委員会において、「聴覚障害者等による電話の利用の円滑化に関する法律案」審査の際、聴覚障がい者の委員会審査の理解のためインターネット審議中継に手話通訳を付す案が協議され、総務委員長から議院運営委員長に対し、「本件は、今後、参議院全体の課題として検討されるべきもの」との意見の申入れがありました。これを受けバリアフリーPTにおいて協議の結果、令和3年1月召集の常会から、参議院における施政方針演説、所信表明演説及びそれらに対する各会派の代表質問の審議中継の際に手話通訳を付けることが合意されました。

この合意の実現に向けての半年程度の間、手話通訳者の撮影や映像付与のための機材・施設の整備を関係部署と連携して進め、手話通訳者を派遣する事業者とは実施に当たっての具体的な課題などについて打合せを行ってきました。そして、第204回国会（常会）令和3年1月18日の施政方針演説等政府4演説、同月21日及び22日の各会派の代表質問の際、従来の審議映像に手話通訳映像を合成表示（ワイプ）した映像が、参議院の審議中継映像として生中継され、インターネットを通じて全世界に配信されました。

この3日間の中継においても、手話通訳者がより良い状態で通訳に従事できるよう、様々な助言を仰ぎながら日々調整を重ねての実施となりました。参議院審議テレビ中継の開始から30年余り。全ての人に「開かれた参議院」であるために、議会活動の姿をダイレクトにリアルタイムに多くの人に伝えることのできる審議中継は、バリアフリー化への取組を始めたばかりです。

さとう せいじ
（佐藤 誠司・庶務部広報課）